長洲町立長洲小学校　校長便り　No.１４１

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和５年１２月１１日(月)

雑感

多分年齢的なものだろうと思うが、最近、仕事やＱＯＬについてよく考えるようになった。教職に就き折り返し点はとっくに過ぎたが、未だに反省することが多いのは何故だろうかと思う。それについて納得できる理由を探すために多くの本を読み、情報番組を視聴し、各方面で活躍している人達の考えに触れてきた。未だにこれだという明確な答えは探せないでいるが、何となく最近分かってきたことがある。それは、どんな仕事にも学び続ける事が大切だということだ。若い頃、特に就職してからは「これでやっと勉強しなくて済む。」と本気で思っていた時期があるが、今振り返ると就職してからの方が勉強していた時間は長い。しかも、色々な場面で「もっと良い手立てはなかったか」と振り返り、そこから新しい事を考えてきた。今も習慣となってそれが活きている。ここで、リタイアした時のことを考えてみた。自分に学び続ける気持ちは残っているだろうか？　教職を一生の仕事として捉えているならば学び続けるだろうし、賃金を得るための活動と捉えているのなら、そこで教職の学びはストップするだろう。現時点で、私は前者でありたいと思う。何故なら、教え子達との繋がりが続いているからである。彼らは節目節目に私と連絡を取り、課題に直面すればアドバイスを求める。それに応えることは私の喜びであり責任であると思う。であるならば、新しい情報を常に更新していく、学び続ける人間でありたい。現職の教師である今だからこそ、尚更である。人を育てる、互いに学ぶ、何という壮大なロマンだろうか。

これからの読書

子供が小学生の間は、大人が本を選んで与えることが多いですね。

さて、今後はどのように読書を進めていくか？　読書量も大切ですが、それに併せて「書物のジャンルの幅」が重要になってきます。最近の子供達は好きなジャンルばかりを集中して読む傾向が強く、読書の幅が狭くなりがちです。学校図書館のシリーズ物などが一斉に借りられてしまうのがその現れです。

入試問題や面接、論文の傾向として、幅広く知識や自分自身の考えを問われることが多いのですが、小学生にはそれに合わせた読書を進めたいところです。ちなみに私はどのような読書をしていたか？　小学校の時は殆どマンガでしたが、併せて興味を持って取り組んだ活動に合わせた本を選んでいました。釣りの本、歴史の本、カメラ雑誌…。今考えてみると、その時その時の自分自身の体験を、より充実させるために本を読んでいたようです。

最近の私の読書傾向、まず、忙しい時に限って見たくなる本は写真雑誌と模型雑誌です。仕事が行き詰まるとついつい手が…。他の本は物語とエッセイが多いようです。他にも「ブレない生き方」、「教室再生」、週刊誌の立ち読み…とまあ、本のジャンルは多岐に亘ります。考え方が偏らないように、色々な作者の本を読めと、自分に言い聞かせる毎日ですが、どうしても共感できるものに偏ってしまいます。皆さんの読書についても知りたいですね。

シリーズ「自分を語る」#１４１

運動会が終わり梅雨の時期に入っていきますが、教頭は少し先のことを見越して準備をしていかなければなりません。すでに夏休みの準備に入りました。業務はそれだけではありませんので、幾つかの仕事のゴールを設定し、業務のラインを複線化していくことを心掛けました。ただでさえ途中で仕事が途切れるのですから、業務の複線化は教頭職にあっては必要最低限のスキルだと捉えるようになりました。ルーティンワークは何となく出来るようになったかな？と思う澤田、それは錯覚でしたが…。

平成２８年度、ドタバタと教頭業務と向き合いながら、夏休みを目指して頑張る澤田。まだまだ１年目ですから、業務内容がルーティン化できるわけがありません。今でも初めて出会う仕事に対しては気が動転します。先生方の夏休み中の動静表を作成して、やっと夏休みに入りました。一段落です。とはいえ、夏休み中はこの動静の管理が大変です。服務の管理と言います。先生方の出張や校外勤務などを全て把握しておく必要があり、それらを完全に実施していくことも教頭の仕事なんです。「夏休みって、先生方は楽でしょ？」と聞かれることがありますが、実は忙しいんですよ。子供達が通ってきている間は授業をしていますので、専門性に関する研修などは限られた時間しかできません。従って、夏休み中は先生方が勉強するチャンスなのです。お盆は休みが取れますが、それ以外は殆ど出張等のお勉強がメインの夏休みです。

この頃、やっとですがこれまでの経験から学んだことを一般化し、新しいことに適用できるようになってきましたが、平成２８年度は降りかかる業務をこなすことで精一杯で、創造的な仕事はほぼゼロでしたね。ただ、多くの行事や活動を通して、荒尾第一小学校はコミュニティ・スクールであり地域に支えられているということを感じることができていました。これまでに勤務した学校は、コミュニティ・スクールではありませんでしたので尚更です。引っ切り無しに地域の方が来校され、様々な支援を頂きます。普通では有り得ないことが展開されているのです。

という訳で夏休みが終わってしまいました。私にとっての夏休み明けの大きな仕事は、５年生の集団宿泊教室の引率でした。これが何故大きな仕事かと言いますと…、それは写真撮影がセットだからです。校長先生との会話…

「教頭先生、引率頼むぞ。写真のレベルは前年度水準で！　去年の見といて。」

そこで、去年の写真を見る私…！？　何じゃこの写真は！　プロ並みじゃん！

「この水準でって、それはちょっと…。」

「俺の白レンズ持ってく？」

と言って出されたレンズはプロがよく使っているレンズでした。写真が趣味の方なら、「７０～２００㎜F２．８の純正ズームレンズ」「２４～７０㎜F２．８」と言ったらすぐに解られることでしょう。てな訳で、この２本のレンズをお借りして、カメラのボディだけは私が使っていたもの「キャノンEOS５０D」でした。詳しい方ならば、お解りかと思います。ボディは低中級者向きでレンズはハイアマチュアからプロが使う物という組み合わせでした。この年の集団宿泊教室には想定外の事態が待ち受けていました。それは引率するはずだった職員の入院です。　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）